

# 党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争

習近平



中央编译出版社  
Central Compilation & Translation Press

# 党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争

習近平

中共中央規律検査委員会 編  
中共中央文献研究室

中共中央編訳局 訳



中央编译出版社  
Central Compilation & Translation Press

## 图书在版编目(CIP)数据

习近平关于党风廉政建设和反腐败斗争论述摘编：日文 / 习近平著；  
中共中央编译局译．—北京：中央编译出版社，2017.1  
ISBN 978-7-5117-3222-4

I. ①习… II. ①习… ②中… III. ①习近平—讲话—学习参考资料—日文  
②中国共产党—党风建设—学习参考资料—日文 IV. ① D2-0 ② D261.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2016) 第 306763 号

## 习近平关于党风廉政建设和反腐败斗争论述摘编(日文)

---

出版发行：中央编译出版社

地 址：北京西城区车公庄大街乙 5 号鸿儒大厦 B 座 (100044)

网 址：[www.cctphome.com](http://www.cctphome.com)

印 刷：北京紫瑞利印刷有限公司

开 本：787 毫米 × 1092 毫米 1/16

版 次：2017 年 1 月第 1 版第 1 次印刷

定 价：98.00 元

## 出版にあたって

「腐敗は社会の悪性腫瘍である」。党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争は党と国の存亡にかかわる。腐敗に断固反対して党が長期政権の状況下で腐敗・変質しないようにすることは、中国共產党が常にしっかりと取り組まなければならない重要な政治的任務である。

中国共産党第十八回全国代表大会以降、習近平総書記は党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争を非常に重視し、「党が党を管理し、厳しく治める」必要性を強調し、一連の新しい理念・構想・措置を打ち出し、党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争を推し進めて絶えず大きな成果をあげてきた。

本書は、中共中央規律検査委員会と中共中央文献研究室の共同編集による『党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争に関する習近平総書記の論述抜粋集』を底本として翻訳したものである。本書には、二〇一二年十一月十五日から二〇一四年十月二十三日にかけての習近平総書記の談話・論文・指示など四十編余りの重要文献から計二一六の抜粋が、九つのテーマに分けて収められている。

読者の方々には、党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争に関する中国の最高指導者の系統だった論述を通じて、中国共産党が進めている党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争の取り組みをよりよく理解していただければ幸いである。

中共中央編訳局  
二〇一六年九月

# 目次

|   |                                                      |    |
|---|------------------------------------------------------|----|
| 一 | 党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争はわれわれがしつかりと<br>取り組まなければならぬ重要な政治的任務である | 1  |
| 二 | 党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争の情勢は<br>依然として厳しくかつ複雑である               | 13 |
| 三 | 党を厳しく治め、党の規律を厳正にする                                   | 35 |
| 四 | 党委員会の主体责任と規律検査委員会の監督責任を<br>しっかりと果たす                  | 69 |
| 五 | 中央の「八項目規定」の精神を徹底的に貫徹し、<br>「四つの悪風」をたゆまず正する            | 85 |

|   |                                             |     |
|---|---------------------------------------------|-----|
| 六 | 「ゼロ容認」の姿勢で腐敗を処罰し、<br>腐敗現象の蔓延を断固食い止める……………   | 121 |
| 七 | 巡視という反腐败の「鋭い剣」をしっかりと活用する……………               | 139 |
| 八 | 権力を制度というオリに閉じ込める……………                       | 159 |
| 九 | 腐敗阻止・変質防止に向けた思想・道德面の防衛線を<br>しっかりと築き上げる…………… | 181 |

党風・廉潔政治建設と反腐敗  
闘争はわれわれがしっかりと  
取り組まなければならない重  
要な政治的任務である





新たな情勢の下、わが党は数多くの厳しい試練に直面しており、党内には早急に解決すべき問題が数多く存在する。とくに力を入れて解決しなければならないのは、一部の党員幹部に見られる、汚職・腐敗、大衆からの遊離、形式主義、官僚主義などの問題である。

「人民の幸せな生活へのあこがれこそ、われわれの奮闘目標なのである」

(二〇一二年十一月十五日)

『十八大以来重要文献選編』(上)、中央文献出版社、二〇一四年版、

七〇ページ

腐敗に反対して廉潔な政治を建設し、党の健康体を保っていくことは、わが党が一貫して堅持している不変の鮮明な政治的立場である。党風・廉潔政治建設は、広範な幹部・大衆が常に関心をもっている重要な政治的課題である。「物必ず先に腐り、而して後虫生ず<sup>のち</sup>」という。ここ数年一部の国では、長期にわたって蓄積された矛盾がもとで、国民の不満が充満し、社会が動揺し、政権が崩壊しているが、その矛盾のうちでは、まさに汚職・腐敗こそが非常に大きな原因なのである。多くの事実からわかるように、腐敗問題がどんどん深刻化していけば、最終的には必ず党と国の

滅亡を招く。われわれは用心しなければならない。

「中国の特色ある社会主義の堅持と発展をしっかりと中心に据えて

第十八回党大会の精神を学習・宣伝・貫徹しよう」

(二〇一二年十一月十七日)

『十八大以来重要文献選編』(上)、中央文献出版社、二〇一四年版、

八一ページ

中国共産党第十八回全国代表大会(以下、第十八回党大会と略す)で定められた諸般の目標・任務を達成し、「二つの百周年」の奮闘目標(中国共産党創立百周年までに小康「ややゆとりのある」社会を全面的に築き上げ、新中国成立百周年までに富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家を築き上げるという目標)を達成し、中華民族の偉大な復興という中国の夢を実現するには、わが党をしっかりと建設することが不可欠である。第十八回党大会は、党建設の科学化の水準の全面的向上について明確な要求を打ち出し、以下の点をとくに強調した——「党が党を管理し、厳しく治める」方針を堅持し、党の指導力・執政力のレベルと腐敗変質防止・リスク対応能力を不断に高め、自己浄化・自己改善・自己革新・自己向上の能力を強化し、党が終始中国の特色ある社会主義事業の強固な指導的中核となるよう万全を期す。党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争は

党建設の重要な任務である。

「第十八規中央規律検査委員会第二回全体会議における談話」

(二〇一三年一月二十二日)

執政者が清廉潔白で権力を公正に用いてこそ、人民の信用と支持は得られる。この道理を、わが党は早くから明確に打ち出してきた。一九二六年八月には、中国共産党中央執行委員会拡大会議が通達を出し、党内に腐敗分子が紛れ込んできていることに厳重に警戒しなければならぬ、「これらのよくない分子を断固として一掃し、これらのよくない傾向と闘わなければ、われわれの陣営を強固なものにし、大衆の間で党の声望を確立することはできない」と指摘している。新中国成立直前には、毛沢東同志が中国共産党第七期中央委員会第二回全体会議（以下、中央委員会第〇回全体会議は〇中全会と略す）で、謙虚慎重・刻苦奮闘の氣風を保持しなければならず（「二つの保持」、糖衣弾（賄賂等の甘い罠）に負けてはならないと全党を戒めている。新中国成立初期には、わが党は劉青山・張子善の腐敗墮落案件を厳しく調査・処罰し、広範な幹部を教育し、人民大衆の間に共産黨員は法を厳格に執行するというイメージを確立している。改革開放以降の三十年余りにわたっては、鄧小平同志を中核とする党の第二世代中央指導グループ、江沢民同志を中核とする党の第三世代中央指導グループ、胡錦濤同志を総書記とする党中央が、党風・廉潔

政治建設と反腐敗闘争に終始重要任務として取り組み、旗幟鮮明に効果的な措置を講じて著しい成果を収めてきたが、このことは党の先進性と純潔性の維持・発展に重要な役割を果たし、わが党が改革開放と社会主義現代化建設をリードするのをしっかりと保証してきたのである。逆に言う、わが党が党風・廉潔政治建設を大いに重視し腐敗に断固反対することを貫き通してこなかったならば、わが国の経済・社会の発展にはこれほど大きな成果はなかったであろうし、改革・発展・安定の大局も固まつてはいなかったであろう。

「第十八期中央規律検査委員会第二回全体会議における談話」

(二〇一三年一月二十二日)

腐敗は社会の悪性腫瘍である。もし腐敗問題を放置してどんどん深刻化させれば、最終的には党と国が必ず亡ぶ。わが党は党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争を党と国の存亡にかかわる高次の任務として認識しているが、これは古今東西の歴史的教訓を深く総括したうえでのことである。中国では歴史上、支配集団の深刻な腐敗に起因する王朝の滅亡の事例がたくさんあるが、今日の世界でも、政権党の腐敗墮落や大衆からの遊離に起因する政権崩壊の事例は枚挙にいとまがない。

「第十八期中央規律検査委員会第二回全体会議における談話」

(二〇一三年一月二十二日)

仕事に対する姿勢の問題は、決して些細な問題ではない。よくない気風を断固として是正せず、そのままはびこらせれば、見えない壁のようにわが党と人民大衆とを隔てるようになり、わが党は基盤・血脈・力を失うであろう。仕事に対する姿勢の改善は、政治の生態を浄化し、廉潔政治の良好な環境を築くことにほかならない。

「第十八期中央規律検査委員会第二回全体会議における談話」

(二〇一三年一月二十二日)

周知のように、毛沢東同志は一九四五年に黄炎培の質問——中国共産党はいかにして中国の歴代王朝にみられる興亡のサイクルから抜け出すのか——に答えて、「人民に政府を監督させてはじめて政府は気を緩められなくなり、一人ひとりがすすんで責任を負うようになってはじめて政治空白は起こらなくなる」と述べている。わが党は中国労働者階級の前衛であり、中国人民と中華民族の前衛でもある。わが党の根本目的は誠心誠意人民に奉仕することである。こうした党の性格と根本目的をあくまで堅持して変節・変質しない限り、われわれは必ずや「興亡のサイクル」から抜け出せるであろう。

肝心なのは、党が常にしっかりと人民に依拠し、人民大衆との血肉のつながりを保ち続け、片時も大衆から遊離しないことである。これを貫徹すべく、党風・廉潔政治建設と反腐敗闘争を揺

るごとく踏み込んで進めていかなければならない。各種の消極腐敗現象や権力悪用現象は、人民大衆が最も許しがたいと感じているものであり、党と人民大衆との血肉のつながりを最も深刻に傷つけるものである。政党というものの、政権というものの前途・運命はつまるところ人心を得られるかどうかで決まる。われわれは消極腐敗問題を全力で解決して、党が常に人民と一心同体であるようにしなければならない。

「第十八期中央政治局第五回グループ学習会における談話」

(二〇一三年四月十九日)

わが党は中国の最も広範な人民の支持を得ており、中国には中国共産党に取って代わることのできる政治勢力は一つもない。わが党の政権基盤は強固である。だが、気風の問題をしつかりと解決できなければ、『霸王別姫』の項羽のように人々に見放され没落することもありうる。われわれは危機感を持たなければならない。

「河北省で党の大衆路線教育実践活動を視察・指導した際の談話」

(二〇一三年七月十一、十二日)

腐敗問題はわが党を最も深刻に傷つけるものであり、党員や民衆は腐敗分子の嚴罰を望んでいる。それゆえ、党内に決して腐敗分子を潜ませてはならない。これは、党と人民大衆との血肉のつながりを保つための必然的要請であり、党の政權基盤と政權党としての地位を固めるための必然的要請でもある。

「第十八期中央規律検査委員会第三回全体会議における談話」

(二〇一四年一月十四日)

腐敗に断固反対して党が長期政權の状況下で腐敗・変質しないようにすることは、われわれがしっかりと取り組まなければならない重要な政治的任務である。

「第十八期中央規律検査委員会第三回全体会議における談話」

(二〇一四年一月十四日)

改革開放の進展と社会主義市場經濟の発展に伴い、わが党が大衆から遊離する危険は以前よりも格段に高まっている。このことこそが、第十八回党大会が「四大試練（10く11ページを参照）」の克服と「四つの危険（11ページを参照）」の防止を全党に強調して要求した所以である。第



十八回党大会後に党中央が氣風づくりに嚴格かつ迅速に取り組むと決めた根拠と理由もまさにそこにある。「憂患に生き、安樂に死す」という。危機感と切迫感がなく、問題の根源が見えなければ、危険の到来はそう遠くはない。

〔河南省蘭考県党委員会常務委員会拡大會議における談話〕

(二〇一四年三月十八日)

党の氣風は、党のイメージにほかならず、民心の向背、党の存亡にかかわる。政權党が氣風づくりを重視せず党のからだが不正の氣風に蝕まれるままにすれば、民心を失い、政權を失う危険がある。わが党は、中国で長期的に政權を担うマルクス主義政党として、氣風の問題に対していかなる時も氣を緩めてはならない。

〔第十八期中央政治局第十六回グループ学習会における談話〕

(二〇一四年六月三十日)

われわれ共産党員の憂患意識とは、党を憂い、国を憂い、人民を憂う意識である。これは一種の責任であり、一種の使命感でもある。われわれは、党が直面している執政の試練、改革開放の試練、